

飼料作物種子の鳥害防除試験

第1報 とうもろこしについて

原田角郎*・今泉洋一郎*

HARADA, K. and IMAIZUMI, Y. On the Protection of Forage Crops Seeds against the Injury by Birds.

1. 緒言 飼料作物の播種期は殆んどが春秋であつて、丁度佐賀県平坦の米麦地帯では農閑期に該当し、労力の配分上極めて都合が良い、ところが野鳥（代表的なものはカササギ）にとつては採食場の狭められた時期であるから飼料作物が此の時期に、しかも小面積に播種されると集中的に甚しい被害を受ける。カササギは現在県下の全平坦地に繁殖しており（一部は福岡県、熊本県にも棲息す）、食性は雑食性で昆虫などの動物質や、雑草の種子を食つたりして間接には利益を与えているが、目前で直接食害を受ける農家にとつては「保護鳥という名の害鳥」でしかないわけである。ここに各種の薬剤及び顔料を塗抹して、防除試験を行った。

2. 試験方法 薬剤及び顔料を塗抹したデントコーンの種子のリーデンベルヒ氏発芽試験器による発芽試験をし、次いで1区8寸×8寸、高さ3寸の連続した木框を作り、カササギのトヤより50mの位置にある畑に置き、1区に各々第1回調査では70粒を、第2

回目は50粒を裸出して置き、5日目毎にその摂食量を調査した。

3. 成績 処理種子の発芽率は、クレオソート、タールを除いて、いづれも発芽は良好であつた（第1、2表）。

第1表 発芽調査（3区平均）

区分	セレサン	クレオソート	硫酸鉛	ベンガラ	タール	マラソン
発芽勢	93.3%	C %	96.0%	94.3%	0 %	93.0%
発芽率	96.7	0	96.0	98.0	4	95.5

第2表

区分	紫	黒	緑	茶	藍	無処理
発芽勢	90%	93%	90%	99%	87%	73%
発芽率	90	93	98	99	96	93

第1回の摂食量調査ではタールが特によく、次いでベンガラが効果があつた。他の薬剤は悪臭及び多少の毒性等にかかわらぬ摂食率が見られた（第3表）。

第3表 第1回摂食量調査（4回平均）

区分	セレサン		硫酸塩		ベンガラ		タール		マラソン		無処理	
	摂食量	摂食率	摂食量	摂食率	摂食量	摂食率	摂食量	摂食率	摂食量	摂食率	摂食量	摂食率
5日目	4.8粒	6.8%	9.3粒	13.2%	0粒	0%	1.3粒	2.1%	13.8粒	19.6%	29.8粒	42.5%
10日目	22	31.4	47.3	67.5	12.5	17.9	9.8	13.9	64	90.7	70	100
15日目	67.5	96.4	70	100	66.8	95.3	26.3	36.8	70	100	70	100

31年8月25日より15日間放置

第1回の調査により彩色の種子に効果があるようにの通りであつた。思われたので、顔料による処理をしたが結果は第4表

第4表

区分	紫		黒		緑		茶		藍		茶 (ベンガラ)		無処理	
	摂食量 (粒)	摂食率 (%)	摂食量 (粒)	摂食率 (%)	摂食量 (粒)	摂食率 (%)	摂食量 (粒)	摂食率 (%)	摂食量 (粒)	摂食率 (%)	摂食量 (粒)	摂食率 (%)	摂食量 (粒)	摂食率 (%)
5日目	8	16	14	28.7	36.3	72.7	19.3	38.7	3.3	6.7	19.3	38.7	50	100
10日目	24.3	48.7	26.3	52.7	41.0	82	25.3	50.7	6.3	13.7	27.3	54.7	—	—
15日目	50	100	50	100	50	100	50	100	3.8	76	50	100	—	—

*佐賀県農業試験場

4. 考察 1回目も2回目も無処理区との差は明らかに見られ、5日目の調査では Block 間の差がひどく、置床位置による差も見え、10日目では Block 間の差が縮まつて処理間の傾向が見え、15日目では処理間の差が少くなる。

現われた効果が警戒心によるものか、嗜好性の差によるものか明らかでないが、継続使用すると効果が減ずるかも知れない。

この調査はカササギのトヤから 50 m 位の離れた畑で種子を裸出して行つたから、実際面ではカササギの数も分散されるし、覆土或は、堆肥施用による薬剤及び色剤の効果は更に上廻るものと思われる。

参 考 文 献

倉成栄吉，佐賀の爲，新郷土，9卷7号，郷土研究，3号。